

三朝町立三朝中学校校内研究会(アドバイザー派遣事業)実施レポート

1. 研修テーマ 高い志と豊かな感性を持ち、21世紀を生き抜く生徒を育てる
～生徒の確かな学力の育成のために、教師の「教材研究と授業技術」を磨く～
2. テーマ設定理由 21世紀を生き抜く生徒に求められる力は、『「確かな学力」「豊かな人間性」「たくましく生きるための健康や体力」までを含めて構成する「生きる力」』の育成だと考えている。
本校生徒の現状を鑑み、まずは「生きる力」を「知」の側面からとらえた「確かな学力」の確実な育成を喫緊の課題ととらえ、学校評価(「学校楽楽(学習づくり)・学校楽楽(人間関係づくり)・バッチリズム推進・オールみささサポート」プラン)と研究推進を有機的に関連させ、元気な学校づくりに取り組んでいる。
そこで、チームリーダーを中心としたカリキュラム・マネジメントを行い、教師の「教材研究と授業技術」を磨くことで授業力を上げ、生徒の確かな学力の育成を図る。
3. 講師 岐阜聖徳学園大学 教育学部 玉置 崇 教授
公立中学校長の経歴があり、「学校を元気にする」ことをキーワードに、「チームリーダーの育成術」「学級づくりの仕事術」をはじめ「中学校数学の授業ネタ」などに関する著書や様々な場での講演や模擬授業を精力的に取り組まれている。「授業成功の極意」と題した講演では、聞くだけではなく、「笑う、考える、表現する、書く、ペアで話し合う、生徒になる、映像を見る」など、様々な場面を組み合わせた講演内容で、教師自身が思考力や表現力を高められると想定した。
4. 研修日時 平成28年6月30日(木)13時00分～16時45分
5. 研修内容
 - ① ワークショップ
 - ② アドバイザーによる授業参観
 - ③ 授業参観後の協議など
 - ④ 教育講演会
6. まとめ [ワークショップ]から
本校生徒の“強みと弱み”を明確にするために、授業検討法「3+1(スリー・プラス・ワン)」を体験しながらまとめた。
「3+1 授業検討法」とは、授業の「よかったこと」を3つ、「改善点」を1つ見つけるという検討法。



[教育講演会]から

「授業力アップの秘訣」では、サントリー創設者 鳥井信治郎 氏の“やってみなはれ。やらなわからしまへんで。”の言葉を皮切りに、ご自身が実践されたことを紹介された。

- ・ あいさつカード⇒あいさつの見える化

・ ABCD の原則⇔

「A=当たり前のことを B=バカにしないで C=ちゃんとやれる人が D=できる人」

子どもから教えられることはたくさんあるので、子どもの力を信じることの大切さを再確認できた。

「伸びる教師の条件」に必要なものは「素直 勉強好き プラス思考」という示唆があり、「授業とは何か」での、講義と授業の違い(講義:教師が大事なことを言う 授業:子どもが大事なことを言う)の明示には納得できた。

生徒が意見を言う時間を増やすための授業中のキーワード、「なるほど!!(向きを変えて)どう?」を実践していくことを決意した。



7. おわりに

本年度の研究推進において欠かせないのは、授業づくりにおける、教師一人ひとりの専門性の向上である。アドバイザーの玉置先生には、そのためにご指導をお願いした。

かつて公立中学校の校長をしておられた先生の話には、教材研究や授業技術のみならず、教育実践そのものに関わる示唆も多くあり、教師としての日々の自分の姿を見直し、問い返す機会にもなった。

『すべては生徒のために』私たち自身、もっともっと高まっていかなければならない。